

春日井市に対する愛着、石黒の回想

春日井市は生まれ育ったところで、現在も市役所近くに住んでいる。そして現在、パス建築環境設計の主作業はJR春日井駅前の春日井教育センタービル内の春日井事務所で行っている。市民として、春日井市との親しい関係は1978年、カナダケローナ市と春日井市との姉妹都市提携をするために当時の鈴木義男市長の私信を携えてジョン・ヒンドル、ケローナ市長に届けたことから始まった。現地では、新聞報道とテレビ出演で春日井市を国際的に紹介する一助になったが、そして2001年春日井市が愛知県で最初の環境都市宣言をした当日、市長室で鶴飼一郎市長に、石黒の翻訳監修した本「グリーンディベロップメント」を贈呈した。地球環境を考えて実現したアメリカの都市と建物の実例を紹介したこの書はその日にふさわしい贈り物と考えた。



それより前、1986年、春日井市が、新庁舎を建設にあたり、3年間の使用が想定される仮設庁舎の外壁、2F天井の断熱をどのようなのが最適かの視点で、断熱工事費、空調設備投資費、機械室面積の縮小による建物への利用スペース拡大への貢献及び、運転費の各々から比較検討するコンサルティング業務が市より委託された。

断熱材ナシ、グラスウール断熱25mm、50mm、75mmのそれぞれで比較検討するものであった。結果として、仮設庁舎では、断熱材を厚くしても、運転時間が3年と短いため、断熱工事費を運転費でカバーすることが困難となった。費用対効果から、断熱材の厚みは50mmが最適と結論した。

